

大島復興交流プログラム 概要報告

大島復興支援東京ボランティアセンター

2013年の台風26号の被害は、伊豆大島で死者・行方不明者が39名にもおよぶ多大な被害を及ぼしました。台風災害から1年が過ぎようとしていますが、未だ仮設住宅での暮らしを余儀なくされている方もいらっしゃいます。

発災直後から東京都災害ボランティアセンターを様々な団体とともに運営し、伊豆大島の支援活動に取り組んで参りましたが、2014年2月より、大島復興支援東京ボランティアセンターとして新たに復興支援に向けた取組みを行ってきました。一方で、大島のボランティア活動に参加された人は、大島に訪れる機会が減り、その後の大島の状況をしる機会が少ない状況があります。

こうした背景から、2013年、ボランティア活動参加された方々を中心に、昨年、台風の影響で中止となった福祉まつりへの参加を通して島民の皆さんと交流を行なうプログラムを実施しました。

日時 2014年10月31日(金)～11月2日(日)

1泊は船中泊、1泊は旅館での宿泊

場所 大島社協福祉まつりの会場(役場周辺)、被災地域(元町2丁目～3丁目、神達)、波浮港

内容 (1日目)

出発日 10月31日(金) 22時00分 東京竹芝港発(大型客船)

(2日目)

活動日 11月1日(土) 6時00分 大島着(岡田港)

10時00分 大島社協「福祉まつり」のお手伝い
(会場設営や模擬店、パネル展示など)

17時00分 終了・各自宿泊場所へ(大島館、三浜館)

(3日目)

帰京日 11月2日(日) 8時40分 町役場職員から被災状況および
復興に向けた取組みの説明

9時20分 被災地域の散策(元町2丁目～3丁目)

10時30分 島民の語り部

11時00分 バスによる島内視察(波浮港)

14時30分 大島発(大型客船)

20時10分 竹芝港着・解散

○大島復興支援東京ボランティアセンターとしても、大島社協「福祉まつり」にブース出展し、浪江焼きそばの提供(都内に避難している方に協力を仰いだ)、東日本大震災の被災地物産展を行った。

参加者 32名 ○参加者は広く公募するのではなく、大島復興支援東京ボランティアセンター関係者の中から、当時、大島土砂災害のボランティア活動に参加した人に声かけをして募集を行った。

○参加費1万円

主催 大島復興支援東京ボランティアセンター

(構成団体) 大島社会福祉協議会、国際協力NGOセンター(JANIC)、静岡県ボランティア協会、ジャパン・プラットフォーム、シャンティ国際ボランティア会(SVA)、東京災害ボランティアネットワーク、東京ボランティア・市民活動センター、東京YMCA、日本青年会議所関東地区東京ブロック協議会



島民の方々と一緒に「福祉まつり」の会場設営を行う。



島のボランティア団体や福祉団体が模擬店を運営。お手伝いをしながら島民の方々と交流。



当日は雨で急遽役場の駐車場で模擬店を開催。「福祉まつり」自体は島民約1200人が参加。



当時は島民と交流があまり出来なかった方も、お手伝いを通して様々な話ができたとのこと。



被災地スタディツアー。役場の方に大島の復興施策について伺った。



被災地域を歩きながら、島民の方に当時の話や現状について伺った。



被害の大きかった椿園のおかみさんの語り部。1年経っても復興の道のりは長いことを実感。



バスで波浮港等を視察し、船で東京に戻る。テープで島民が見送ってくれた。